

(19)日本国特許庁(JP)

(12)登録実用新案公報(U)

(11)実用新案登録番号

第3004142号

(45)発行日 平成6年(1994)11月8日

(24)登録日 平成6年(1994)8月31日

(51)Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
H 0 4 B 1/38		8949-5K		
7/26	V	9297-5K		
H 0 4 M 1/23	A	7341-5K		

評価書の請求 未請求 請求項の数 2 F D (全 4 頁)

(21)出願番号 実願平6-6243

(22)出願日 平成6年(1994)5月11日

(73)実用新案権者 000234937

八重洲無線株式会社

東京都中央区八重洲1丁目7番7号

(72)考案者 飯束 嘉庸

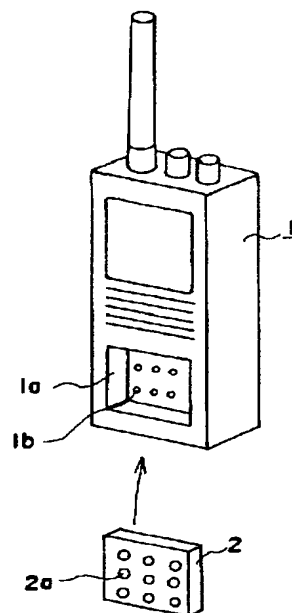
東京都大田区下丸子1丁目20番2号 八重洲無線株式会社 本社事務所内

(54)【考案の名称】 操作キーの構造

(57)【要約】

【目的】 1台の無線通信機で、多種多様な操作を行う。

【構成】 無線通信機本体(1)に穿溝部(1a)と接点(1b)とを設け、かつ穿溝部(1a)に嵌合する操作キーブロック(2)を用途別に備えることによって、多機能な無線通信機が構成できる。



1 無線通信機本体
 1a 穿溝部
 1b 接点
 2 操作キーブロック
 2a 操作キー
 2b 接点

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 無線通信機本体（1）に穿溝部（1 a）を設け、更にこの穿溝部（1 a）の内側に接点（1 b）を付設して、操作キー（2 a）を有する操作キーブロック（2）の裏側にある接点（2 b）と嵌合接続することにより、用途別に交換し得ることを特徴とする操作キーの構造。

【請求項2】 操作キーブロック（2）の中に電子回路を組み込んで、操作内容に応じた機能を選択し得るようにしたことを特徴とする請求項1記載の操作キーの構造。

【図面の簡単な説明】

【図1】 無線通信機本体及び操作キーブロックを用途別に交換することによって、ジャンルの異なる無線通信機

と同じ動作を行える効果がある。

【図2】 操作キーブロックの背面から見た斜視図である。

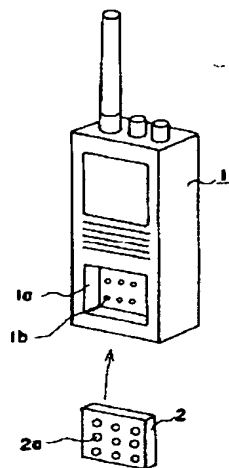
【図3】 無線通信機本体及び操作キーブロックの他の実施態様を示す斜視図である。

【図4】 無線通信機本体及び操作キーブロックの他の実施態様を示す右側面図である。

【符号の説明】

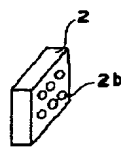
1	無線通信機本体
1 a	穿溝部
1 b	接点
2	操作キーブロック
2 a	操作キー
2 b	接点

【図1】

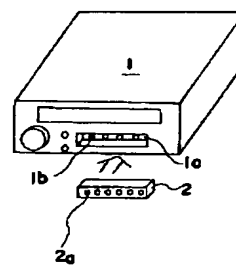


1 無線通信機本体
1a 穿溝部
1b 接点
2 操作キーブロック
2a 操作キー
2b 接点

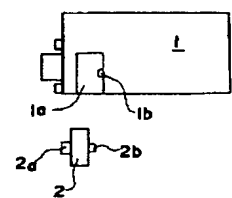
【図2】



【図3】



【図4】



【考案の詳細な説明】

【 0 0 0 1 】

【産業上の利用分野】

この考案は、無線通信機の操作内容を用途別に変更する操作キーの構造に関するものである。

【 0 0 0 2 】

【従来技術】

従来この種の無線通信機においては、通信機本体と操作キー部が一体構造であり、かつ機能的に固定されているものが多い。

【 0 0 0 3 】

【考案が解決しようとする課題】

しかし、上述のような従来技術においては、操作機能を変更しようとする場合、大幅に回路を設計しなおしたり、また、操作キーの数を必要に応じて変更しなければならない等の問題があった。

【 0 0 0 4 】

この考案は、従来知られていた操作キーの、このような欠点を改良する目的でなされたものである。

【 0 0 0 5 】

【課題を解決するための手段】

図 1 及び図 2 によりこの考案の構造を説明すると、図 1 は無線通信機本体（1）と操作キーブロック（2）の構造を、図 2 は前記操作キーブロック（2）の裏側の構造をそれぞれ示し、無線通信機本体（1）に設けられた穿溝部（1 a）の接点（1 b）と、前記操作キーブロック（2）の接点（2 b）とを嵌合接続するように構成したものである。

【 0 0 0 6 】

【作用】

無線通信機本体（1）に設けられた穿溝部（1 a）に適合する操作キーブロック（2）をカートリッジ型式とし、かつ、その目的に応じた運用を行うために、前記操作キーブロック（2）をその都度交換して用いる。

【 0 0 0 7 】

また、操作キーブロック（2）の中にメモリーIC等の電子回路を組み込むことによって、より高度な機能を発揮するよう動作する。

【 0 0 0 8 】

【実施例】

次に、この考案の操作キーの構造を図面に基づいて説明するが、図1は無線通信機本体（1）と操作キーブロック（2）の実施態様を示し、図2は前記操作キーブロック（2）の裏側にある接点（2b）を表わしたものであり、図3及び図4は無線通信機本体（1）と操作キーブロック（2）の他の実施態様を示したものである。

【 0 0 0 9 】

無線通信機本体（1）の下部に穿溝部（1a）を設け、更にこの穿溝部（1a）の内側に接点（1b）を設けることによって、操作キー（2a）を有する操作キーブロック（2）の接点（2b）と接続し、前記操作キーブロック（2）の操作内容により前記無線通信機本体（1）をコントロールするよう構成されている。

【 0 0 1 0 】

また、操作キーブロック（2）の中にメモリーIC等の電子回路を組み込むことによって、より高度な機能が発揮され、かつ前記操作キーブロック（2）を機能別に用意することにより多種多様な無線機が用意に制作できる。

【 0 0 1 1 】

なお、図3及び図4に示したように、車載用の無線通信機本体（1）に操作キーブロック（2）を設けることによって、図1と同じ構成の動作を行うことができる。

【 0 0 1 2 】

【考案の効果】

この考案は、以上説明したように、無線通信機本体は1種類で、操作キーブロックを用途別に交換することによって、ジャンルの異なる無線通信機と同じ動作を行える効果がある。